

第二百八十五話 日米謀略放送合戦

対米英戦時、日本は米国に、同じく米国も日本に対して謀略放送を行った。夫々の詳細は割愛する。その効果がどうであったかは不透明である。ある程度の効果はあったのだろうが、それが全般戦局を左右したかというところでもないようだが・・・本話では、日米双方が行った謀略放送を管見することとする。

1 日本の対米謀略放送

(1) ゼロアワー (84話「甘く切ない声のDJ(東京ローズ)は誰?」関連)

日本は、「ラジオ・トウキョウ放送(現NHKワールドラジオ日本)を通じて米英豪軍に対し、米捕虜から家族宛の手紙紹介等をした。

連合国捕虜のうちアナウンサー等経験者の協力を強制的に取り付け、音楽と語りを中心に、捕虜が連合軍兵士に呼びかけるというスタイルが採用された。



南太平洋方面の主として米軍を対象とした約20分のディスク・ジョッキー番組である「ゼロアワー」は、1943/3から1945/8/14まで、行われた。英語を話す日本(日系含む)女性アナウンサーが複数存在し、「東京ローズ」の愛称をつけられた。

(2) 日の丸アワー

1943/12/2、短波による米国本土向けラジオ番組「日の丸アワー」の放送が始まった。これは、陸軍参謀本部の直轄番組であり、その目的は米国民の間に厭戦気分を植え付けることで、連合軍捕虜をコメンテーターとした「前代未聞」の謀略放送であったとされる。接收された文化学院にある陸軍参謀本部駿河台分室に収容中(後には大森捕虜収容所の捕虜も)の米捕虜による大本営発表やラジオ劇が放送された。

米軍兵士は時として符牒(隠語)やヒントを織り交ぜ、その所為か、捕虜施設のあるお茶の水界隈は空襲を免れたという。この捕虜放送局は1945/8/14まで放送された。番組は30分、全て生放送だったと云うから大変だったろう。

2 米国の対日謀略放送

日本本土へは短波のみが届いたが、日本政府が短波受信機の使用を厳禁していたので、一般国民への謀略放送は無意味であった。が、1944(S19)年夏サイパンが陥落すると日本でも中波の電波がキャッチできるようになったので、米軍は本格的に放送開始に向けて動き出した。当然ながら日本語での放送である。

(1) VOA (Voice of America)

1944年末、OWI(戦時情報局)が、アメリカからの放送であることを公言した所謂ホワイト・プロパガンダを開始した。VOAは、現在でも放送が続けており、放送は英語の他に、「民主化が必要な」各国の言語でも放送されている。

(2) 新国民放送局 (The Voice of people)

OSS(戦略諜報局)が、日本人の発信を装った謀略の中波ラジオ放送を、1945年4月に開始した。この放送局は「新国民放送局」(“The Voice of People”)と称し、『其の名の示す如く、新しい、国民のための、国民自身の手による、放送局である』としていた。同志が、日本の国難打開のために、国民に早期降伏を呼び掛けているというスタイルである。二部構成であった。日本で放送禁止となった歌、厭戦的・享樂的な歌を積極的に取り上げ、懐かしのメロディで、親近感を抱かせようとした。

* 共通する敵国人の活用、取り組み開始の早い日本、黒白を織り交ぜた米国と面白い。誰を対象に、如何なる目的で、プロパガンダを行うかの判断が難しい。国民性も指導者Gpと国民の一体性の度合いも肝要も謀略の効果には影響するだろう。状況によってはコスパが高いかも知れぬが、効果の評価・判定が困難だ。

(F)